

2020 年 11 月 13 日
2020 年 12 月期 第 3 四半期決算 カンファレンスコール 説明要旨



皆さまこんばんは。日本ペイントホールディングス CFO 若月です。

本日はお忙しい中、また遅い時間にご参集いただき、誠にありがとうございます。2020 年度第 3 四半期決算の概要をご説明いたします。

なお、本日は YouTube での音声配信も開始しています。また、前回に引き続き、日英両言語にて同時通訳を入れたカンファレンスとしています。よろしくお願いいたします。

1-1. 本日のサマリー (1)

2020年3Q YoY成長率



(短信ベース)

売上収益+18.7%
営業利益+17.3%

(実質ベース)

売上収益+6.8%
営業利益+6.7%

- 2020年3Q連結業績の前年同期比は、
短信ベース / 売上収益:+18.7%、営業利益:+17.3%と増収増益
実質ベース / 売上収益:+6.8%、営業利益:+6.7%と増収増益
- 中国経済は4.9%成長し、NIPSEA中国事業も+18%増収、
+38%増益を達成。Projectは中国北部・西部における好調な
新規建設により+33%増収。DIYも徐々に回復しつつあり+9%
増収に転じる。自動車用も+17%を達成
- 自動車塗料は、国内外の生産台数の回復が想定以上に進む。
しかし、国内は依然前年並みまでの回復には至らず、事業全体
としては減収
- 昨年買収したDuluxGroup社は1ヵ月(9月)、Betek Boya社は
3ヵ月(7~9月)の業績を実質ベースに計上
- Betek Boya社は経済活動の再開による需要増や拡販策の
奏功、DuluxGroup社もコロナ影響による既存住宅の塗り替え
需要の継続により、ともに着実に業績貢献
- 日本やアジアを中心に、全地域において原材料の調達価格の
低減が利益に貢献

まずは P3 本日のサマリーです。

2020 年度第 3 四半期実績は、短信ベース、主に買収効果を除いた実質ベースともに、増収増益となりました。

特に NIPSEA 中国においては、前回 8 月の決算発表時には比較的慎重な見方をしていましたが、3 月に続く需要月である 9 月も好調であったことから、対前年で大幅な増収増益となっています。

自動車用は引き続き新型コロナウイルスの影響を受けているものの、第 3 四半期では相応に回復し、また DuluxGroup 社、Betek Boya 社ともに着実に貢献しています。Betek Boya 社は昨年第 3 四半期から連結されているため実質ベースにも含まれていますが、DuluxGroup 社は昨年 9 月からの連結のため、短信ベースでは「1 ヵ月対 3 ヵ月」の対比になる点にご留意ください。

1-1. 本日のサマリー (2)

2020年度 連結業績予想

売上収益 7,600億円

営業利益 760億円



・コロナ影響は全体的に緩和傾向にあるものの、一部地域では新規感染者数が再び増加に転じるなど経済市況の悪化リスクは残っており、いまだ合理的に見積もることは困難な状況であるが、好調な3Q業績に鑑み、通期業績予想をアップデート

・前回予想値 (8月14日発表) に対し、売上収益は+4.1%、営業利益は+15.2%上方修正

・8月14日時点での想定との主な相違点は以下の通り
 ↑ NIPSEA中国の建築用塗料事業 (Project・DIY) の業績改善
 ↑ 欧州Betek Boya社の業績改善
 ↑ 自動車用塗料の早期回復
 ↓ 海外各社の販売促進の強化に向けた費用増

・Betek Boya社の通期計画を売上収益約320億円、営業利益約40億円※1 (従来はそれぞれ310億円、26億円※2) に上方修正

2020年度 EPS予想

109円



・EPSは109円 (前年比-5円/前回予想比+22円) を想定

・年間配当金は45円 (前年と同額) を予想

NIPPON PAINT HOLDINGS GROUP

※1 11月発表時の為替レート (PPA償却前)
 ※2 8月発表時の為替レート (PPA償却前)

4

続いて P4 です。2020 年度連結業績予想の変更についてご説明いたします。

2020 年度に関して、年初から 9 ヶ月を経て新型コロナウイルスの影響もだいぶ見えてきました。ただし、世界各地での影響は引き続きさまざまであり、欧米での悪化に加え、影響の少ないアジアでも、マレーシアにおいて 10 月からロックダウンが再開するなど、不透明な状況が続いていると考えています。

一方、好調な第 3 四半期実績を反映して、売上収益、営業利益、EPS (基本的 1 株当たり当期利益) とともに任意開示の範囲ですが、ガイダンスを前回 8 月予想から上方修正しています。

ただし、今年は第 3 四半期も含めて特異な状況下、例えばマーケティング費用などは自然と抑制されてきましたので、改めて第 4 四半期は来年以降に向けた投資、費用の増加も見込んでおり、特に利益面ではそれらも反映した着地予想となっています。

なお、配当予想については変更ありません。

1-2. 主要地域の市況・業況のサマリー (1)

主要地域の市況・業況

日本	汎 用: 3Qは、コロナ影響や7月の長梅雨・台風などが影響し、低調に推移。4Qは、前年の消費増税後の低迷からの回復を見込むが、戸建てリフォームを中心に回復遅れと相まって、前年並み市況となる見通し 工業用: 3Qはコロナ影響により各分野において市況低迷が継続。4Qも市況回復が見込まれるも、前年並みまでの回復は難しいと想定
NIPSEA 中国	汎 用: 3Qは、塗り替え現場の制限解除に伴い、既存住宅の塗り替え需要が想定以上に回復したことに加え、消費者マインドが改善し、業績は前期比+9%と増収に転じる。4Qも、市況は継続・拡大する見通し 汎 用: 3Qは、主に中国北部・西部における好調な新規建設により、業績は前期比+33%の増収。戦略的顧客への注力を継続。4Qも、順調な市況は継続するが、好調であった前年対比では若干落ち着く見通し 工業用: 3Qは、コロナ影響からの回復や輸入減少により、農機・建機や保護コーティングが増加したことで、前年同期比+9%の増収
アジア (NIPSEA 中国以外)	3Qは、マレーシアグループがコロナ影響から回復傾向にあり増収。一方タイグループは、コロナ影響・国境封鎖・政情不安などにより、-28%の減収。全体としては前年を下回る。4Qは、タイの業績悪化が想定され、マレーシアでは10月にロックダウンが再開するなど注視が必要

NIPPON PAINT HOLDINGS GROUP

5

ここから各地域の市況・業況をご説明いたします。

まず日本の汎用事業は、昨年の第3四半期が消費増税前の駆け込みがあった分、今年の第3四半期は前年同期比でやや低調、第4四半期はほぼ前年同期並みに回復する見通しです。

NIPSEA 中国については、冒頭お伝えした通り、汎用においてDIYが前年同期比9%の増収、Projectも同33%の増収と好調な第3四半期となりました。7月には大雨洪水が発生し、Projectでの工事遅延が発生したものの、8-9月で取り返しました。第4四半期はそれほど大きな需要期ではない一方、昨年の第4四半期は特にProjectが前年同期比42%の増収と好調であったので、前年同期比では若干落ち着くと想定していますが、全体に好調なモメンタムは維持されていると考えています。

NIPSEA 中国以外は、全体に4-6月のコロナ影響から脱しつつありますが、マレーシアに加え、タイの政情不安もあり、第4四半期は引き続き相応に慎重な見通しとしています。

1-2. 主要地域の市況・業況のサマリー (2)

主要地域の市況・業況

オセアニア	3Qは外出規制の実施有無に関わらず、全事業でコロナ影響による既存住宅の塗り替え需要が継続し、前年比+9% (参考値) 増収。DIYは好調を維持し、DIFM※も堅調であった。一方、コロナに起因する需要押し上げ効果は4Qおよび来年1Qにかけて徐々に平準化を見込む
米州 (Dunn-Edwards)	3Qは、コロナ規制緩和および政府の低金利政策による好調な住宅市況により、前年比+5%増収。4Qも、堅調な市況の継続が想定される一方で、コロナ再拡大による経済停滞を懸念
欧州 (Betek Boya)	3Qは、都市封鎖の緩和および経済活動の再開により市況は好調に推移し、拡販策も相まって前年同期比+84%と、想定より大幅増収。4Qは、3Qの積極的な販促等の反動もあり減収を想定
自動車事業	日本: 3Qは、期中徐々に市況が回復するも、四半期としては引き続き生産台数は前年比-13%。4Qは8月想定より若干回復基調は高まるものの、生産台数は前年割れの見込み NIPSEA: 3Qは、政府による各種優遇策等により、日系・韓国系メーカーを中心に中国 生産台数が前年比+14%と前年を上回り、+17%増収。4Qは高い成長率であった昨年対比で減速する見込み 米州: 新車在庫払底を回避するため顧客生産が拡大し、3Qの自動車生産台数は前年並みまで回復。4Qは、顧客新車在庫積上げ一巡後の減速懸念が残る 欧州: 緩やかな回復基調にあるも、引き続き生産台数は前年割れ。4Qは、コロナ再拡大による影響を懸念

NIPPON PAINT HOLDINGS GROUP

※DIFM (Do It For Me) : 業者による施工が必要な事業

6

オセアニアの DuluxGroup 社は、第3四半期における外出規制の有無に関わらず、全事業での塗り替え需要が継続し、参考値ですが、前年同期比9%の増収と好調を維持しました。全体的にコロナ影響による需要の前倒し、押し上げ効果は相応にあると考えていますので、ここまでの好調は徐々に平準化することも想定し、第4四半期においては来年以降を見据えた投資も行っていく予定です。

米州で汎用事業を手掛ける Dunn-Edwards 社については、米国において住宅市況が好調であり、前年同期比で増収となっています。

欧州で汎用事業を手掛ける Betek Boya 社についても、経済活動の再開により市況は好調に推移し、その中でも積極的な拡販策が奏功したことで、前年同期比（為替一定ベース）84%の増収を達成しています。Betek Boya 社は昨年7月に連結していますので、実質ベースでも反映されています。後述しますが、8月に公表した通期業績予想も為替の逆風はありますが、売上収益、営業利益ともに若干上振れの見通しとしました。

最後に自動車用事業ですが、第 2 四半期から比べると全般に回復傾向にあります。中国に関しても、回復モメンタムは継続しますが、昨年年第 4 四半期が良かった分、少し減速するものと想定しています。

以上が大枠でのご説明になります。

1-3. 第2四半期決算発表からの主なトピックス①

アジア合併事業100%化並びにインドネシア事業の買収について(8月21日発表)

- ・アジア合併事業の100%化およびインドネシア事業の買収を決議
- ・益々成長するアジア市場の取り込みにより、大幅な利益増・少数株主の利益保護・株主価値最大化を実現
- ・2021年1月1日のクロージングを予定



8月21日 説明会資料



資本構成図

ここから8月以降の主要トピックスをご説明いたします。

8月21日に発表した「アジア合併事業100%化並びにインドネシア事業の買収」については、引き続き2021年1月1日のクロージングを目指しています。

念のため申し上げますと、本年度12月末までは現状のバランスシート構成となり、今期末の配当も今現在の株式数をベースに支払われます。

1-3. 第2四半期決算発表からの主なトピックス②

抗ウイルス・抗菌製品に特化した新ブランド「PROTECTON」を開発（9月4日発表）

- ・新ブランドのもと、家庭用から工業用まで、塗料に限らない様々な抗ウイルス・抗菌製品を順次開発予定
- ・第一弾はDIY・家庭用として日本で初めて可視光応答形光触媒による抗ウイルス・抗菌機能を持つ水性塗料「PROTECTON インテリアペイントプレミアム」（9月4日発売）
- ・第二弾は、従来品より低価格、塗りやすさを更に向上させた可視光応答形光触媒採用の室内用水性塗料「PROTECTON インテリアウォール VK-200」（10月28日発売）



NIPPON PAINT HOLDINGS GROUP

8

引き続き重要なテーマである社会課題の解決に向けて、抗ウイルス・抗菌製品に特化した新ブランド「PROTECTON」を発表しています。すでに DIY 用、プロ向けで製品を発表していますが、今後も高機能・プレミアム商品としてブランドをシリーズ化しながら開発していく予定です。

1-3. 第2四半期決算発表からの主なトピックス③

塗料のワクワク・オドロキを伝える企業CMを10月3日より全国で放映中(9月28日発表)

- ・女優の多部未華子さんをメッセンジャー役として起用。塗料とコーティング技術で、世界中にオドロキの可能性を広げていく「PAINT.WONDER」の世界観を伝える
- ・CMでは、当社塗料が使われているオブジェクトをミニチュアで表現し、色を塗るだけでなく、人びとの暮らしを守り、生活を豊かに彩る塗料の様々な機能を伝える



NIPPON PAINT HOLDINGS GROUP



CM模様

※当社公式Youtubeチャンネルにて、
CM・メイキング映像をご覧いただけます

こちらはテレビ CM の開始についてです。

塗料が持つさまざまな機能、そして可能性を幅広く認知してもらうべく制作、放映しています。
YouTube でも視聴できますので、是非ご覧ください。

1-3. 第2四半期決算発表からの主なトピックス④

「統合報告書2020」の発行(9月30日公開)

- ・昨年度版から内容・デザインともに大きく刷新
- ・ESGやSDGsの視点を取り入れながら、グローバルな事業戦略を積極的に推し進め、経営上のミッションである「株主価値の最大化(MSV)」を目指す戦略ストーリーについて説明
- ・本統合報告書を活用しながら、投資家・アナリストの皆様との積極的な対話を実施



統合報告書2020



CEOメッセージ



NIPSEAグループCEOメッセージ

特集：NIPSEAグループの
中国事業における成長機会

DuluxGroup



Betek Boya



Dunn-Edwards

NIPPON PAINT HOLDINGS GROUP

10

2020 年度版の統合報告書も無事発行することができました。

昨年度版から比べると内容・デザイン・ページ数とも大きく刷新しています。まだまだ改善の余地はあると思いますが、投資家の皆さまとのコミュニケーションのベースとして、ぜひご一読いただき、率直なご意見・ご要望などをいただければと思います。

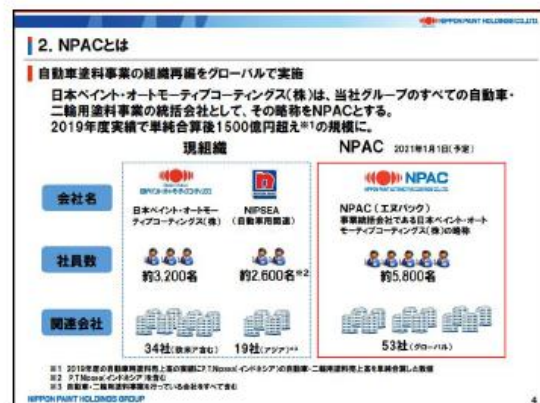
1-3. 第2四半期決算発表からの主なトピックス⑥

自動車用塗料事業のグローバル組織再編(10月1日発表)

- ・2021年1月1日付で日本、中国を含むアジア地域、欧米の自動車用塗料事業の機能を、統括会社としての日本ペイント・オートモーティブコーティングス(株)(略称:NPAC)のもとに統合(2019年度実績単純合算後、1,500億円超えの規模)
- ・国を越えた顧客担当責任者を設置するとともに、営業・R&D体制をグローバルに構築し、お客様への迅速な情報・サービスの提供をワンストップで実現



10月1日 開示資料



NPAC概要

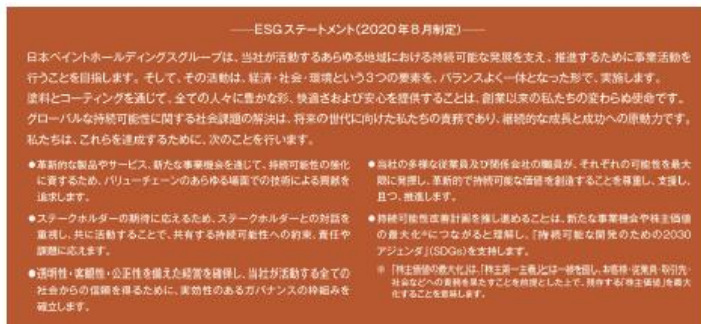
こちらは10月に発表しました「自動車用塗料事業のグローバル組織再編」です。

これは一言で申し上げますと、アジア合併事業の100%化に伴い、建築用は引き続き地産地消、ローカルにビジネスを展開していくのに対し、自動車用はお客様がグローバルにビジネスを展開しているため、当社もよりグローバルに一体運営をしていく、部分最適からより全体最適を目指していく、ことを狙いとしています。これも資本関係をシンプル化することで、よりスムーズに移行できるものと考えており、スピード感を持って新体制へ移行してまいります。

1-3. 第2四半期決算発表からの主なトピックス⑦

「ESGステートメント」策定と重要課題（マテリアリティ）の特定（10月30日公開）

- ・海外のパートナー会社と作成プロセスを共有してともに議論を重ねながら、ESG経営における当社の基本的姿勢を定めた「ESGステートメント」を策定
- ・ESG委員会や海外パートナー会社、また外部ステークホルダーの方々との議論を経て、「ESGステートメント」に基づいた事業の持続可能性についてのマテリアリティを特定
- ・今後、マテリアリティごとに具体的な目標を設定し、施策に取り組む



ESGステートメント

マテリアリティ

- ① 気候変動
- ② 資源と汚染
- ③ ダイバーシティ&インクルージョン
- ④ 労働安全衛生
- ⑤ コミュニティとともに成長
- ⑥ 社会課題を解決するイノベーション創出

最後に「ESG ステートメント」と「マテリアリティ」の特定についてです。

本年から「ESG 推進部」という独立部署を設置し、社員一人ひとりが ESG をより「自分事」として捉えてもらうべく、グローバルベースで議論を重ねて策定しました。ここはご案内の通り、マテリアリティを特定することが目的ではなく、ここからより具体的な KPI に落としとして施策に取り組むことが重要であり、経営としても積極的に取り組んでいく所存です。

以上、要約しながら申し上げてきましたが、改めて年初からディスクロージャーの改善、投資家の皆さまとの対話重視を謳い、さまざまな施策をかなりのスピード感をもって実践してきています。この経営のスピード感は失うことなく、引き続き投資家・アナリストの皆さまと対話を深めていきたいと考えていますので、改めてよろしくお願いいたします。

2-1. 2020年第3四半期決算 ハイライト

(億円)	短信ベース			実質ベース			
	2019年 3Q	2020年 3Q	YoY (%)	2019年 3Q	2020年 3Q	YoY (額)	YoY (%)
売上収益	1,827	2,169	18.7%	1,827	1,951	125	6.8%
営業利益	244	286	17.3%	236	252	16	6.7%
営業利益率	13.4%	13.2%	-0.2pt	12.9%	12.9%	-	-0.0pt
税引前利益	234	296	26.4%	226	266	40	17.9%
四半期利益 [※]	117	147	26.3%	119	129	10	8.4%

※親会社の所有者に帰属する四半期利益

売上収益

- ・買収および市場回復効果もあり、短信ベースで前年同期比+18.7%、実質ベースで+6.8%の増収
- ・建築用は、中国のProject・DIYが回復し、豪州やトルコが好調を維持する一方、日本はコロナ影響からの回復が遅延
- ・自動車用は、各地域において徐々に回復傾向にあるも、前年同期の水準には届かず

営業利益

- ・短信ベースで前年同期比+17.3%、実質ベースで+6.7%の増益
- ・NIPSEA中国は、コロナ後の市況回復に伴う増収効果により、増益
- ・営業利益率は、原材料価格の低減活動や固定費削減が奏功し、前年並みに推移

NIPPON PAINT HOLDINGS GROUP

15

続いて第3四半期のハイライトです。P15の内容はすでにお話していますので、P16をご覧ください。

2-2. 決算ハイライト (第3四半期 地域別 売上収益・営業利益)

(億円)		短信ベース			実質ベース			
		2019年 3Q	2020年 3Q	YoY (%)	2019年 3Q	2020年 3Q	YoY (額)	YoY (%)
日本	売上収益	464	399	-14.0%	464	399	-65	-14.0%
	営業利益 [※]	52	20	-62.5%	63	21	-42	-67.4%
アジア	売上収益	934	1,033	10.6%	933	1,045	111	11.9%
	営業利益	144	171	19.4%	124	165	40	32.3%
オセアニア	売上収益	131	403	206.3%	131	137	6	4.5%
	営業利益	28	54	92.6%	28	19	-9	-32.2%
米州	売上収益	191	194	1.6%	191	200	8	4.3%
	営業利益	13	22	69.4%	13	22	9	72.6%
その他	売上収益	107	140	31.0%	107	171	64	60.0%
	営業利益	8	19	155.7%	8	25	17	224.5%
合計	売上収益	1,827	2,169	18.7%	1,827	1,951	125	6.8%
	営業利益	244	286	17.3%	236	252	16	6.7%

※海外グループ会社からの配当 (2020年3Q:2億円、2019年3Q:2億円) を除く

主な増減要因

- 日本 : 建築用は長梅雨・台風・コロナ影響からの回復が遅延し、自動車用も市況回復途上にあり、減収減益
- アジア : 中国では自動車市況の回復が加速し、また建築用が第2四半期に続き好調に推移したことで、タイグループなどのNIPSEA中国以外の業績をカバーし、増収
- その他 (Betek Boya) : 経済活動の再開による好調なトルコ建築市況に加え、拡販策が奏功し、増収

NIPPON PAINT HOLDINGS GROUP

16

こちらは地域別の売上収益、営業利益の分解となります。

日本は第2四半期に赤字でしたが黒字回復し、アジアは好調となっています。

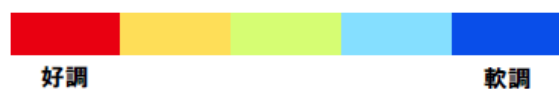
DuluxGroup社は実質ベースで減益ですが、これは以前にもご説明しました通り、昨年9月単月に現地での決算に伴う調整などがあり、利益が大きく出ていたためであり、今年が好調であることに変りありません。

その他は欧州ですが、Betek Boya社は昨年7月から連結されており、短信ベースと実質ベースのどちらにも入っていますが、売上収益の差は為替になります。

3-1. 市場環境・事業環境 (第3四半期)

	日本	アジア (NIPSEA中国)	オセアニア	米州
自動車	→	→		→
建築	→	DIY →	Project →	→

■ 市況 (前年比)



■ 業況 (市場対比) ※



※当社推定

市況分析

- ✓自動車: 自動車生産台数は各地域で回復基調にあるものの、地域によりまだら模様
- ✓建 築: 日本は、昨年の消費増税、本年の長梅雨・台風の影響で市況は引き続き低調
中国のDIYは、塗り替え現場への立ち入り制限の解禁、Projectは住宅市況の継続的な回復により、それぞれ好調に推移
豪州は、コロナ影響による既存住宅の塗り替え需要が継続
米州は、コロナ規制緩和から、住宅市場が比較的堅調に推移し、市況は前年を上回る

NIPPON PAINT HOLDINGS GROUP

18

こちらは、第3四半期実績でのヒートマップとなります。

NIPSEA 中国の建築用は先ほど申し上げた通り、DIY、Projectともに好調でしたが、市況も相応に好調でしたので、引き続き現地での実感としては、シェアは横ばいになります。いずれも当社推定の範囲でご理解ください。

一方、オセアニアは、引き続き特に小売店などでの DuluxGroup 社の圧倒的シェアがさらに際立つ形で、好調な市場に加えてシェアも上昇したと考えています。

なお、日本においては自動車用、建築用ともに引き続き軟調ですが、自動車用は第2四半期が約50%減収だったのに対して、第3四半期は約22%減収となり、改善がだいぶ見られます。

次ページ以降の詳細は質疑応答に委ねますので、次に P27 の 2020 年度通期業績の見通しについてご説明いたします。

4-1. 2020年度 通期業績予想

(億円)	短信ベース					為替一定ベース ^{※1}				
	2020年 予想			予想比 (%) (5月 VS 11月)	予想比 (%) (8月 VS 11月)	2020年 予想			予想比 (%) (5月 VS 11月)	予想比 (%) (8月 VS 11月)
	5月時点	8月時点	11月時点 (今回)			5月時点	8月時点	11月時点 (今回)		
売上収益	7,200	7,300	7,600	5.6%	4.1%	7,200	7,400	7,700	6.9%	4.1%
営業利益	630	660	760	20.6%	15.2%	630	670	780	23.8%	16.4%
営業利益率	8.8%	9.0%	10.0%	1.2pt	1.0pt	8.8%	9.1%	10.1%	1.3pt	1.0pt
税引前利益	600	650	760	26.7%	16.9%	600	660	780	30.0%	18.2%
当期利益 ^{※2}	250	280	350	40.0%	25.0%	250	290	360	44.0%	24.1%

※1 為替一定ベースは、2020年5月発表予想時の為替レートをベースにした概算

※2 親会社の所有者に帰属する当期利益

今回予想 (8月予想比分析)

- ・3Qにおいて、中国の建築用 (Project・DIY)、オセアニアの既存住宅の塗り替え需要、トルコの旺盛な需要および拡販策の奏功などを要因として、想定以上に伸長
- ・自動車用も8月想定に比べ、国内外ともに生産台数が回復し、上方修正に寄与
- ・NIPSEA中国、DuluxGroup社等では更なる売上成長のための販売促進を4Qより強化

今回予想における為替・原材料前提

- ・トルコリラは8月時点より円高を想定
- ・日本のナフサ前提価格は、8月想定から変更なく
4Qは34,000円

<連結P/L 為替換算レート>

	2019年 通期	2020年通期 (5月発表)	2020年下期 (8月発表)	2020年4Q (今回発表)
円/米ドル	109.2	107.0	107.7	105.8
円/人民元	15.8	15.5	15.2	15.5
円/豪ドル	74.7	75.0	73.9	75.5
円/トルコ	18.9	18.2	15.8	13.6

※期中平均レート

NIPPON PAINT HOLDINGS GROUP

27

当社としては、市場の皆さまとの対話を重視する中、任意開示にてガイダンスを再びアップデートしています。

ページ右側の表ですが、これは5月予想の為替を一定にした場合の数字の変更イメージを捉えていただくため、概算値を入れています。8月からの大きな為替の変更はありませんが、5月予想の為替から比較すると、やや円高に振れていることが短信ベースに反映されています。

4-2. 2020年度 4Q業績予想

(億円)	短債ベース			
	2019年 4Q実績	2020年 4Q予想 (11月時)	YoY (額)	YoY (%)
売上収益	1,969	1,977	8	0.4%
営業利益(19年 減損損失除く)	229	127	-102	-44.5%
営業利益	116	127	11	9.5%
営業利益率	5.9%	6.4%	-	0.5pt
税引前利益	136	124	-12	-8.8%
当期利益※	40	34	-6	-15.0%

※親会社の所有者に帰属する当期利益

売上収益

- ・地域・事業毎に環境はまだ模様であるが、全体としては前年を若干上回る見通し
- ・増収要因としてNIPSEA中国の汎用およびDuluxGroup社の成長、減収要因としてBetek Boya社の好調な3Qに対する反動減、および自動車用におけるコロナ影響の回復遅延の影響を見込む

営業利益(19年 減損損失を除く)

- ・自動車用およびBetek Boya社等の減収に伴う減益の見通し
- ・本部費用が、広告宣伝費・人件費等を中心に前年を上回る想定
- ・NIPSEA中国は、建築用の増収効果がある一方、広告宣伝・販売促進活動の強化を予定
- ・DuluxGroup社は好調を維持する一方、今後の成長に向けたマーケティング強化等の費用増を見込む

NIPPON PAINT HOLDINGS GROUP

28

さて、第3四半期までの実績が出ている中、通期業績予想から第3四半期累計の数値を差し引けば第4四半期の当社の見立てが出ますが、皆さまの計算の手間を省くため、このページでお示ししています。

ここでは2点申し上げます。

1点目は、売上収益に関して、昨年第4四半期でもDuluxGroup社、Betek Boya社は連結されているため、為替要因が少し円高に振れている部分もありますが、それでも前年比フラットになるとお考えください。

P33に詳細の内訳を示していますが、NIPSEA中国、DuluxGroup社は増収、それ以外はフラットから若干の減収となっています。

Betek Boya社については、ここまでずっと大幅増収でしたが、第4四半期では一時的に第3四半期の反動減を見込んでいますが、全体のモメンタムは引き続き良好です。

2 点目は、利益面についてです。昨年は欧州とインドで 100 億円超の減損がありましたので、減損前の営業利益と比較すると実質的に約 100 億の減益となります。この要因ですが、各地域で来期以降に向けたマーケティングやプロモーション費用を積み増しているほか、ホールディングスとしても引き続き来期以降の基盤整備のための費用が少し嵩むことから、このような水準を想定しています。

実は 8 月に下期および通期の見通しをご説明した時も少し保守的ではないか、という声をいただきました。実際、第 3 四半期はそれを上回る実績を達成しており、今回も結果的に保守的であったと評価される可能性はあると考えています。一方、市況は非常に流動的であり、今後の不確実性は結構残ると見通しています。また、グループとしては常に長期的な視点で成長を志向しており、コロナの特需にあぐらをかいているのではなく、貪欲に来期以降の継続的な成長に向けた投資も行っていく意向である点、ご理解いただければと存じます。

4-3. 市場環境・事業環境（第4四半期）

	日本	アジア（NIPSEA中国）		オセアニア	米州
自動車					
建築		DIY	Project		

■ 市況（前年比） 好調 やや好調 やや低調 低調 軟調

市況分析

- ✓ 自動車：日本は、3Qに続き自動車生産台数の回復を見込むが、前年の水準には到達しない想定
中国は、高い成長率であった前年対比で減速する見込み
米州は、3Qの生産拡大による在庫一巡後の減速を懸念
- ✓ 建築：日本は、前4Qの消費増税後の低迷はあるものの、コロナ回復遅れにより今4Qは前年並み
中国は、DIYは概ね3Qの市況が継続し、Project市況も堅調な見通し
豪州は、コロナに起因する需要押し上げ効果は4Qおよび来年1Qにかけて徐々に平準化を見込む
米州は、3Qまでの好調な市場を見込む一方、コロナ再拡大を注視

P29 は第 4 四半期におけるヒートマップです。

4-4. 2020年通期 見通しの諸前提 (1)

NIPSEA中国

売上収益	YoY (11月予想※)	YoY (8月予想※)	定性情報
NIPSEA中国	0～5%増	0～5%減	
汎用 (DIY)	0～5%増	5～10%減	塗装現場への立ち入り解除などによる需要回復、消費者マインドの改善により3Qは好調に推移。4Qも3Q状況が継続し、通期でも1桁成長を見込む
汎用 (PRJ)	15～25%増	5～10%増	4Qは、中国北部・西部における新規建設や、戦略的顧客への注力、製品の拡充により、2～3Qの大幅な成長率ではないものの、積極的な販促活動により引き続き着実な成長が見込まれ、通期も8月想定を上回る見通し
自動車	5～10%減	10～15%減	3Q以降の生産台数回復により、上期の減少分を相殺。通期業績も改善するが、引き続き前年を下回る想定

アジア (NIPSEA中国以外)

アジア	変更無し	10～15%減	
自動車	変更無し	25～30%減	4Qは緩やかな回復が想定されるが、3Qまでコロナ影響を大きく受けたことで、通期減収予想を据え置き
汎用	変更無し	5～10%減	下期以降、各国毎に微細な差異はあるも回復が進む。しかし回復度合いは8月想定とおりのため通期予想を据え置き。ただし、マレーシアでは10月よりロックダウンが再開するなど注視が必要

NIPPON PAINT HOLDINGS GROUP ※数値は現地通貨ベース ※↑↓は8月予想対比

30

4-4. 2020年通期 見通しの諸前提 (2)

日本

売上収益	YoY (11月予想※)	YoY (8月予想※)	定性情報
日本	変更無し	10～20%減	
自動車	20～30%減	25～35%減	8月想定よりも自動車市況の回復は若干高まり、当社の減収幅も縮小すると想定
汎用	変更無し	5～10%減	8月想定通り、3Qの長梅雨・台風・コロナ影響からの回復が遅延し、シェア拡大に向けた施策を推進するも、引き続き減収を見込む
工業用	変更無し	10～20%減	8月想定通り、コロナ影響の拡大・長期化に伴って市況悪化が見込まれる。一部市場の改善が予想されるが、通期予想を据え置き

オセアニア

オセアニア	ご参考 10%増前後	ご参考 5%増前後	コロナ影響による既存住宅の塗り替え需要が8月想定以上に継続し、見通しを上方修正。4Qは今後の成長に向けたマーケティング強化等の費用増を予定
-------	---------------	--------------	---

※数値は現地通貨ベース ※↑↓は8月予想対比

4-4. 2020年通期 見通しの諸前提 (3)

米州

売上収益	YoY (11月予想※1)	YoY (8月予想※1)	定性情報
米州	変更無し	5～10%減	
自動車	20～25%減	25～30%減	8月想定通り、3Qは顧客在庫払底による生産拡大が発生し、4Qの在庫一巡による減速懸念が残るも、通期予想を変更
汎用	変更無し	0～10%増	8月想定通り、コロナ規制緩和及び政府施策が住宅市況を支えし、堅調な市況が継続。4Qはコロナ再拡大の懸念もあるため、通期予想を据え置き

その他

自動車	変更無し	20～30%減	8月想定通り、4Qも若干の回復傾向が見込まれるも、前年比としては市況不調により減収幅に変更なし
Betek Boya	ご参考 30～40%増	ご参考 20～30%増	前回通期予想※2:売上収益310億円、営業利益26億円 今回通期予想※3:売上収益約320億円、営業利益約40億円 8月想定以上に、各事業において需要が好調に推移し、また拡販策が奏功。4Qに多少の反動減を見込むも、8月予想を修正

原材料費

原材料費	日本のナフサ前提価格は、8月想定時から変更なく34,000円を想定
------	-----------------------------------

※1 数値は現地通貨ベース

※ 上/下 は8月予想対比

※2 8月発表時の為替レート・PPA償却前

※3 11月発表時の為替レート・PPA償却前

NIPPON PAINT HOLDINGS GROUP

32

P30-32 は各地域における通期業績の前年比予想を記載しており、8月予想からの修正があったエリアは矢印を付しています。

例えば、NIPSEA 中国においては、8月予想における0-5%減から、今回0-5%増へ上方修正しています。

4-4. 2020年通期 見通しの諸前提 (4)

売上収益	2020年度 計画		2019年度 実績	
	通期YoY成長率※1	4Q YoY成長率※1	通期 (億円)	4Q (億円)
NIPSEA中国	0～5%増	0～5%増	2,575	612
汎用 (DIY)	0～5%増	5～10%増	2,027	477
汎用 (PRJ)	15～25%増	10～20%増		
自動車	5～10%減	5～10%減	338	91
NIPSEA中国以外	10～15%減	±0%	1,017	270
自動車	25～30%減	10～15%減	—	—
汎用	5～10%減	5～10%増	—	—
日本	10～20%減	5～15%減	1,826	461
自動車	20～30%減	10～20%減	449	102
汎用	5～10%減	±0%	482	118
工業用	10～20%減	10～20%減	407	104
オセアニア	10%増前後	10%増前後	1,381※2	344
米州	5～10%減	0～5%減	746	177
自動車	20～25%減	10～15%減	259	62
汎用	0～10%増	0～5%増	454	107
その他:自動車	20～30%減	0～5%減	118	30
その他:Betek Boya	30～40%増	5～10%減	292※2	73

NIPPON PAINT HOLDINGS GROUP

 ※1 数値は現地通貨ベース
 ※2 プロフォーマ (非監査) 値を掲載

33

P33 では P28 同様に、通期業績予想から第 3 四半期累計の数値を差し引いた第 4 四半期の
大枠の見込みを示しています。

この辺りも皆さまとの対話を反映したディスクロージャーになっています。今後も、もちろん全ての要望を
叶えられるわけではないですが、ご意見いただければと思います。

最後に P48 以降に、前回 8 月発表資料の一部訂正をご説明しています。

これは 2020 年度の数値ではなく、ご要望のあった 2018 年度と 2019 年度の四半期における調整項目を示す中で、調整項目の内訳を訂正しています。決算短信や説明資料の本文での訂正はありませんが、お詫び申し上げます。

以上となります。ご清聴ありがとうございました。